

第 12 回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット

- 1 開催日 平成 19 年 10 月 31 日（水）
 - 2 会場 夢みなとタワー（夢みなとシアター）
 - 3 テーマ 「環境と交流」
 - 4 次第
- 9:30 開会
- 主催者歓迎挨拶（鳥取県知事 平井伸治）
- 開催都市市長歓迎挨拶（境港市長 中村勝治）
- 大学教授協議会報告（鳥取大学副学長 永山正男）

10:00 本会議

首長基調発言

ロシア連邦沿海地方知事 ダリキン・セルゲイ・ミハイロヴィチ

大韓民国江原道知事 金振旻（キム・ジンソン）

中華人民共和国吉林省副省長 陳偉根（チェン・ウェイグン）

モンゴル国中央県知事 ツェデブドルジ・エンフバト

鳥取県知事 平井伸治

環境子ども交流事業実施報告（ビデオ上映）

首長フリーディスカッション

質疑応答

12:30 閉会

4 会議内容

【司会】

ただ今より第 12 回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミットを開催いたします。本日の司会を務めさせていただきます鳥取県文化観光局長の衣笠と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、鳥取県知事 平井伸治がごあいさつを申し上げます。

【平井知事】

尊敬するモンゴル中央県 エンフバト知事様、尊敬するロシア沿海地方 ダリキン知事様、尊敬する中国吉林省 陳副省長様、尊敬する韓国江原道 金知事様、そしてご列席の皆様。サインバイツガ。ドーブラエ・ウートラ。ターチャンハオ。アンニョンハシムニカ。皆さまこんにちは。

いよいよ北東アジア地方政府サミットが開催されることとなりました。我が国での開催は 2000 年の鳥取県西部地震後のサミット以来ということになります。前回、この鳥取県

に集いましたときには、災害からの復興、そして国際交流の促進について大いに議論を交わしました。

実は、北東アジアサミットは既に 12 回目を数えることとなっております。私たちはこの同じ日本海という海を挟んで隣人同士の関係にあります。それぞれに国の仕組み、地方制度は異なりますが、地域の住民の最大の幸福を追求し、そして地域の発展を願う、その決意と情熱は共有していると考えます。

今回、私たちは「環境」というテーマ、そして「交流の促進」というテーマに取り組むことといたしました。それぞれの地域は同じ北東アジアに位置をしており、一つの地球という星の上で、また同じ海を望み、同じ空のもとで暮らしているわけであります。私たちは環境という、この子孫に残すべき素晴らしい財産をどうやって引き継いでいくか。また、人々の健康、生活、産業振興、さまざまなテーマを抱えながら持続可能な成長をよき環境の中で遂げていくにはどういうふうアプローチをしていったらいいか。今こそ議論すべきときが来ていると思います。

来年は日本の北海道洞爺湖で先進国首脳会議が開催されますが、地方の立場でもこの問題を話し合う必要はあると考えますし、お互いに協力し合うことで調査や研究を進めたり、環境の保全を確保することは可能だと考えます。あわせて、国際交流を推進しながら北東アジアの伸び行く経済を促進し、それぞれの地域に成長の利益がもたらされる仕組みづくりを進めなければなりません。人の流れ、物の流れを相互に起こしていき、そのための航空路や海の航路を発展させる方策を練る必要があると思います。

また、いつまでも平和で共存できる国際社会を建設するためにも文化や青少年など、地域間の国際交流をしっかりやっていく取り組みも大切であります。こうした諸課題に対応するために、今日は各地方から知事、副省長が集まったわけであり、我々は今こそ行動を起こすときではないかと訴えたいと思います。

「学びて時に之を習ふ。亦説ばしからずや。朋有り遠方より来たる。亦楽しからずや」これは東アジアに共通の言葉である孔子の教えであります。一緒に将来のこと、地域のことを学び合うこと、そして遠来の古き友人を大いに語り合うこと、このサミットはそうした喜びの場であらうかと思います。それぞれの地方政府のトップのみならず、この機会に学者の方、経済関係の方、文化関係の方、さまざまな方々がこの鳥取県に一堂に会しております。

10 年前、このタワーを中心として環日本海時代を見詰めたイベントである「夢みなと博覧会」が開催されました。その同じ会場でこうして北東アジアの人間が一堂に会し、共に語り合い、そして将来へ向けた取り組みを始めることの意義を私たちは大いに喜び合いたいと思います。

本日のサミット、そして関連して行われます諸行事が成功裏に終わりますことをお祈り申し上げますとともに、皆さま方のご健勝とご発展をお祈り申し上げましてあいさついたします。ありがとうございました。

【司会】

平井伸治知事の開会のごあいさつでありました。引き続きまして、今回のサミット開催地であります境港市長、中村勝治様よりごあいさつをちょうだいいたします。

【中村市長】

皆さまおはようございます。ご紹介をいただきました、境港市長の中村でございます。本日は、中国、韓国、ロシアそしてモンゴルの各地方政府代表団の皆さまをお迎えいたしまして、私どもの鳥取県境港市で第 12 回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミットが開催されますことはこの上ない栄光であり、大きな喜びとするところでございます。境港市民を代表いたしまして、地方政府代表団の皆さま方を心より歓迎申し上げます。

私どもの境港市を少しご紹介申し上げたいと存じます。境港市は対岸諸国の皆さまから見ますと、ちょうど西日本のほぼ中央に位置いたします。貿易港と日本有数の漁業基地を持つ港湾水産都市でございます。1896 年に日本政府から外国貿易港としての指定を受けて以来、対岸諸国との交易を盛んにし、現在では日本海側では数少ない 5 万トン級の船舶に対応する岸壁、あるいはガントリークレーンなど港湾施設の強化に努め、中国の上海、大連、韓国の釜山港と週 4 日、5 便の定期コンテナ航路で結ばれております。

そして、境港市が有するもう一つの貴重なインフラに「米子空港」がございます。現在、滑走路を 2,500m にする工事が急ピッチで進んでいるところでございまして、2010 年ごろには完成する予定です。米子空港も韓国の仁川空港と定期航空路で結ばれております。山陰地方で唯一の国際空港でございます。

この「ソウル便」は搭乗率が若干低迷しておりまして、存続の危機があったわけですが、鳥取県平井知事を先頭に、民間、行政挙げて一層の利用促進に努めているところでございます。

また、境港市は中国の琿春市、図們市、延吉市、韓国の東草市、東海市、浦項市、ロシアの地方拠点都市と 1994 年から各都市持ち回りで年 1 回「環日本海拠点都市会議」を開催しており、各都市の一層の友好促進と経済発展にともに努めているところでございます。

そして今、北東アジア地域におきましては、中国の琿春市、ロシアのザルビノ港、日本の新潟港、韓国の東草港を結ぶ「北東アジアフェリー航路」の開設に向けた取り組みがなされているところでございます。この航路が開設いたしますと、この北東アジア地域の物流においては輸送コスト、あるいは輸送日数の大幅な削減、さらには観光交流のさらなる活性化が図られて、この地域の「共同発展」に大いに寄与するものと期待をいたしております。

私どもの境港市は、環日本海交流における西日本の窓口として一生懸命努力をしているところでございます。本日ご参加の皆さまにおかれましては、どうぞご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

私ども境港市のPRばかりの話になってしまいましたけれども、本日のこのサミットが北東アジア地域の一層の交流促進と、さらなる発展のために実り多いものとなりますことを願いたしますとともに、ご参加の皆さま方の一層のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます、甚だ簡単でございますが歓迎のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

【司会】

中村市長ありがとうございました。

さて、本会場には北東アジア地域大学教授協議会の皆さまにもお越しいただいております。北東アジア地域大学教授協議会は、本サミットの合意により創設され、一昨日 10 月 29 日と 30 日の両日にわたりまして、記念すべき第 1 回会議が開催されました。本日は北東アジア地域大学教授協議会を代表いたしまして、鳥取大学副学長、永山正男様より、第 1 回会議につきましてご報告をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【永山副学長】

第 1 回北東アジア地域大学教授協議会で議長を務めました、鳥取大学副学長の永山でございます。第 1 回協議会は 5 地域 12 大学からの参加があり、結成宣言及び運営要綱を一同で採択しまして、無事新たな国際ネットワークとして出発することができました。この場をお借りしてご支援に感謝しますとともに、協議会の内容について申し上げます。

3 回の準備会議を重ね議論してまいりました結成宣言がお手元にありますので、ご覧いただければと思います。宣言文では、最初に協議会の性格及び目的について、このように述べております。

「私たち北東アジア地域に所在する各大学は、北東アジア地域の総合的研究を共同の主題として推進し、それを通じて地域の発展に寄与するため、北東アジア地域大学教授協議会を結成することに合意した。私たちは北東アジア地域の現状把握と相互理解に努め、解決すべき課題を発見し、調査研究を行い、可能ならば政策提言を行う。北東アジアは文化的、政治的、その他の多様性を基本的特徴としている。私たちは、その多様性に架橋する大学間ネットワークを形成する。そこで行われる研究協力は豊かな学術的成果を生み出し、北東アジア地域の発展に寄与し得るであろう」としております。

記念講演をしていただいた、九州大学の薮野祐三教授は、この点につきまして北東アジアの地域環境力と大学の役割を考える際の 21 世紀型モデルを提示したものと高く評価されました。参加大学も同様に自覚しておりますが、これから実際にそのための活動を展開したいと考えております。

また、この宣言文では、北東アジアの多様性について言及しておりますが、これはお互いの違いを認め合い、尊重し合った上で共同の学術的課題に取り組みたいという私たちの立場を示すものであります。研究面では、当面五つの領域を重視することといたしました。

宣言では次のようになっております。

「当面、次の5領域を重点として設定し、そのもとで行われる多用な研究、教育での協力を支援し、推進する。また、研究教育の協力をより円滑に推進するためのシステムを開発する。1. 環境と資源、2. 観光と交流、3. 経済と政治、4. 歴史と文化、5. 教育と人材養成、これらの領域を中心として、各地域における大学に関する情報と意見の交換を行うとともに、毎年協議会を開催する」

今回の協議会では、北東アジア地域の相互比較研究や環境政策における協力など、13の研究報告や提案がありました。それらはいずれもこの五つの領域に関係したものであります。先にご紹介しました薮野教授は、北東アジアでの特徴として、特に資源についての課題を強調されました。また、薮野教授も参加者一同も特に教育と人材養成の重要性について何度も強調しておりました。おそらく北東アジアには、この五つの領域にかかわる研究を行っている研究者が多数いると思われます。これからは共通の課題として協力してこれらの研究ができる土台をつくることができました。

次に結成宣言は、協議会の組織的な性格について述べております。

「各大学はこれまでも相互に協力を行ってきたが、本協議会結成の直接の契機は、日本国鳥取県、大韓民国江原道、中華人民共和国吉林省、モンゴル国中央県及びロシア沿海地方の各地方政府による北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミットの第10回及び第11回会議における合意である。私たちは、大学としての独立性を確保しつつ、地方政府サミットと連携・協力していく。本宣言に署名した各大学は、この協議会の活動を積極的に推進するものである。趣旨に賛同される北東アジア地域のより広範な大学が本協議会に参加されることを心から呼びかける」

大学間協力のベースは、多様に積み重ねてまいりました2地域、2大学間の関係であります。その上で江原大学、吉林大学及び鳥取大学は5年前から協力をして、多地域多大学間のネットワークを追及してまいりました。これらの努力に地方政府サミットの合意は大きな促進要因となり、協議会結成の直接的な契機になりました。こうして生まれた本協議会は、北東アジアにおける全く新しい初めての組織であります。

協議会とサミットとの関係につきましては、「独立性の確保と連携協力」と書いております。これは協議会が学術研究の立場にある以上、独立性が必要であるということを確認するものであります。他方で、北東アジアと各地域の発展を目指すという目的からはサミットと連携・協力していくことが可能であり、かつ必要でもあります。

協議会の運営について何点かご説明をいたします。協議会には常設の組織は置きませんが、各地域で参加大学を募ると共に、各地域の幹事大学を選出いたします。参加大学につきましては、学生の修業年限による参加資格の制限等は設けないこととしております。また、地域発展にかかわるシンクタンク等の研究機関にも参加を認めることといたしました。吉林大学から提案がありました、北朝鮮の大学の参加についても了承いたしました。なお、5地域以外からの参加は一般参加という扱いになります。

毎年の協議会は、開催地域の幹事大学の担当者を前年の協議会で議長として選任しておき、開催地の地方政府及び多地域の幹事大学と協力して行うとしました。おそらくそのためには数回の準備会議が必要だと思われます。次期開催地はロシア沿海地方、議長は極東国立工科大学のトゥールモフ総長といたしました。

第1回協議会ではまだ具体的な研究協力等につき、積み残した課題がたくさんございます。さまざまな議論を非常に活発に行ってきました。これらの議論はいずれも協議会を発展させるという立場からのものでありましたので、実際に協議会の活動を発足させ、展開していく中で解決・改善が図られるものだと考えております。

最後に、本協議会はサミットによるご支援と、開催地鳥取県の人的、財政的援助をいただいで成功させることができました。今後ともサミット及び各地方政府のご支援をお願いしたいと思います。北東アジア地域大学教授協議会の結成についてご説明をし、あわせて感謝の意を述べさせていただきました。どうもありがとうございました。

【司会】

永山副学長様、ありがとうございました。それではサミット本会議に移らせていただきたいと思います。各地域代表者の皆さまにはご登壇いただきますよう、よろしくお願いいたします。

さて、このたびのサミットは「環境と交流」をテーマといたしておりますが、ここで各地域の代表者の皆さまより基調発言をいただきたいと思います。まず、ロシア沿海地方知事、ダリキン・セルゲイ様をお願いいたします。

【ダリキン知事】

尊敬するご同僚の皆様、尊敬するサミット参加者の皆様。まず初めに、鳥取県知事でいらっしゃる平井伸治様、今回のサミットの開催に際し大きな努力をいただきました。心からお礼を申し上げたいと思います。

このように北東アジアの地方政府のリーダーが共に集うことは、私たちの国の間の相互理解とさらなる関係強化に大きな貢献をするものであります。北東アジアのビジネス界では、私たちの共同プロジェクトに対して関心が高まっております。これも私たちのサミットが回を重ね、定期的に行っていることによるものだと考えております。ロシア連邦外務省も北東アジア地域経済統合問題について大きな関心を寄せています。

実は、私どもはロシア連邦ラブロフ外相からメッセージを預かってきておりますので、皆さまにお伝えしたいと思います。このメッセージを鳥取県の平井伸治知事にお渡ししたいと思います。

サミットは、私たちが地域レベルで、私たち地域住民にかかわる問題を解決する素晴らしい可能性であると言えます。また、文化、観光、経済統合などに関する実質的なプロジェクトを実施していくこともできます。このサミットではいろいろな問題が解決されるよ

ようになってきています。そして、私どもはさらにこのサミットというものを活用していかなければいけないと思います。そして、私どものレベルで、そして実現していけるプロジェクトを開催していくことで私ども国民の生活レベルを改善しなければいけないと思います。そして、そのためには皆さまの協力が必要です。ですから、相互関係というものをますます改善していこうと思います。

今回のサミットのテーマは「環境と交流」です。今、私たちの近代社会では環境エゴイズムというものは許されるものではありません。そして、私どもは同じ自然を利用しております。同じ空気を吸い、同じ海からの魚を食しています。そして、アジア太平洋地域に住む同じ住民なのです。私たちは皆さまとともに国境を越えた大きな地域の一部であり、この地域ではさまざまな動物や鳥、川や海の生物が行き来をしています。私たちは大きなアジア太平洋エコシステムの一部なのです。

私たちにとって日本海は共通の海であり、その健康状態は私たち共通の関心です。そして、その自然を理性的に利用していくことは北東アジア地域の安定した発展を保障するものとなるわけです。ですから、石油製品や、そのほかの廃棄物により日本海が汚染されることを予防し、処理していくための国際協力を繰り広げる必要があります。

私どもは、そういう意味で非常にいろいろなことを行っております。例えば、「国際環境フォーラム「国境なき自然」」は開催2年目を迎えています。沿海地方はこの数年特に経済がハイピッチで発展しているため、環境保護と生物的多様性の保護が大きな課題となりつつあります。

それから、国際的なレベルで自然を回復するシステムをつくる必要があります。地方政府のリーダー達はこれを理解しています。そして、このサミットのフレームの中でも考えられているわけです。今年シドニーで行われた国際会議では、プーチン大統領が2012年に行われる第3回APEC会議をウラジオストクで開催することを決定されました。この中で私たちの地域での共通エコスタンダード順守を提案しています。この開催について私たちの中でも準備が進んでおります。そして、さまざまな経済プロジェクトが実現されているわけです。

また、私どもは特に環境問題には注意を払っております。この中で重要なのは国際的、そして地域的な中でのいろいろな自然保護のプロジェクトを開催していくことです。自然資源を回復するシステムをつくり、密漁対策に力を合わせ、共通のエコスタンダードを守っていく必要があるわけです。アジア太平洋地域の地方政府のリーダーたちは、生物的多様性の保護と経済発展の間の妥協点を見いだす必要があります。そして、今の時代の社会は共通の環境空間、環境文化なしではやっていけないことを強調したいと思います。

そして、私どものサミットですが、北東アジア環境問題ワーキンググループという形で動いていくことが必要だと考えております。そして、私どもの国に住む人たちが文化、歴史などに関心を持つことも非常に重要だと思っております。ウラジオストクでは、今回第5回国際映画祭「メディリアンフェスティバル」が開催されまして、北東アジアの国々の

映画が紹介されました。これは非常に素晴らしいことです。『モンゴル』という名前の映画が1位を取りました。ロシアのセルゲイ・バトロフさんが監督を務めた映画です。それから、北東アジア諸国の海洋学校を迎え、国際海洋学校フェスティバル「世界海洋若手船長」が開催されました。

さらに沿海地方は、来年度の第13回北東アジア地域国際交流協力・地方政府サミットのウラジオストクでの開催に向けて本格的な準備を進めております。このサミット開催のフレームワークの中でさまざまな具体的なプロジェクトの実現を計画中です。ですから、皆さまのさまざまな提案をお寄せ下さい。必ずや、第13回サミットを成功させることができると確信しております。

このサミットが文化、経済分野の拡大的プロジェクトの実現、そして北東アジア諸国の活動のターニングポイントとなることを心から祈っております。文化、経済、そのほかの非常に広い意味での進展につながると思います。ご清聴ありがとうございました。

【司会】

ダリキン・セルゲイ知事様、ありがとうございました。続きまして、江原道知事、金振旻様をお願い申し上げます。

【金知事】

尊敬する平井伸治知事、ダリキン知事、エンフバト知事、陳副省長、そしてご来賓の皆さま。昨年、吉林省長春市でお会いし、今回また鳥取県で再会できてうれしく思います。

第12回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミットは、1994年11月に江原道東草で第1回目を開いてから12回目を迎えました。12という数字は、アジアでは重要な意味を持っています。1年12カ月を意味する十二支は、アジアで時間と方位を示す重要な概念であります。

今回の「北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット」は、一つのサイクルが終わる12番目の会議というところに意義があります。これまでの第1期のサミットを通じて北東アジア交流協力の章を開くことができましたが、これからの第2期では実質的な実を生み出す交流協力の章を開かなければなりません。

韓国には「誘い水」という言葉があります。「誘い水」は、井戸からポンプで水を汲み出すために、最初に注ぎ込む桶1杯の水のことを指します。「誘い水」という言葉は、客が来ると主人が出ていって迎えるように、水を注いで新しい水を呼び込むという意味が込められています。これまで、このサミットは北東アジア交流・協力において「誘い水」の役割をしてきました。今回12回目の会議は、新しい道を開く重要な転換点となるものと期待しています。

今回のサミットの主題は「環境と交流」です。毎年、春に偏西風に乗ってくる黄砂により、北東アジアのほとんどの地域は大きな被害を受けています。その原因は、地球温暖化

により気候が乾燥してきていることです。気候の変動は砂漠化をもたらし、中央アジア地域の環境を破壊しているだけではなく、黄砂は周辺国の経済と生活に悪影響を及ぼしています。北東アジア環境問題に関連して、地方政府共同の取り組みが何よりも火急な状況です。

また、これとともに「北東アジアグリーンネットワーク」を提案したいと思います。北東アジア地方政府が共に参加し、北東アジア一帯で失われつつある緑地空間を回復させ、ネットワークで結ぶという構想です。「北東アジアグリーンネットワーク」は、砂漠化と黄砂問題を解決し、さまざまな動植物に生息地を提供し、人間と自然、地域と地域を結ぶネットワークとなるでしょう。

「北東アジアグリーンネットワーク」と関連し、既にさまざまな活動が展開されています。鳥取県の遠山正瑛先生は、10 数年前から内モンゴルの小さな村に 300 万本の木を植え、砂漠の真ん中に「恩格貝生態示範区」をつくりました。日本では「日本沙漠緑化実践協会」を創立され、1 万人以上が恩格貝の植樹事業に参加しています。

韓国でも山林庁を中心に「モンゴルグリーンベルト造林事業」と「中国生態環境復元事業」を推進しています。民間レベルにおいても「北東アジア山林フォーラム」、「北東アジア環境平和ネットワーク」、「韓中文化青少年未来の森センター」などの砂漠化防止事業を進めてきました。このように、北東アジア共通の環境問題である砂漠化と、それによる黄砂発生を防ぐため、中央政府と民間レベルで努力しているように、地方政府レベルでも「北東アジアグリーンネットワーク」を構築していかなければならないと思います。

特に、私たち北東アジア地方政府は、気候変化協約の炭素排出削減政策に注目する必要があります。山林の持つ二酸化炭素の吸収効果を考慮した場合、「北東アジアグリーンネットワーク」は環境的な側面からだけでなく、経済交流も促進させることができます。これまでの経済ブロックが競争力を強化するための排他的な地域主義に基づいたものだったとすれば、「北東アジアグリーンネットワーク」は、人類共通の気候変動問題を解決する開かれた環境ブロックという新しい地域協力モデルになると思います。

これまで、北東アジア地方政府の交流協力は、さまざまな事情により満足な成果を収めることができませんでした。しかし、第 1 期 12 年の章が終わろうとしている今、新しい章を開かなくてはなりません。最近の国際秩序は、ヨーロッパ、ロシア、中国、朝鮮半島、日本を結ぶユーラシア統合経済圏を形成する方向で再編されています。

北東アジア地方政府第 2 期の交流・協力の課題は、ユーラシア統合経済圏を中心に「北東アジア経済圏」を樹立することです。具体的には、ロシアのウラジオストク、中国の琿春、モンゴルのウランバートル、北朝鮮の羅津・先鋒、そして韓国の金剛山と雪岳山、日本の西部を結び、一つの「北東アジア経済圏」を形成することです。

特に、シベリア横断鉄道（TSR）と朝鮮半島縦断鉄道（TKR）を連結し、北東アジアとユーラシアを結ぶ複合物流と交通体系を構築し、ロシアとモンゴルのエネルギー資源を開発することができるだけでなく、中国と韓国、日本の地域経済を活性化することが期待で

きます。

最近では、北東アジア交流最大の問題であった北朝鮮の参加はそう遠い将来のことではないと思われます。5月17日、江原道では、南北朝鮮の鉄道が連結され、南北交流の新たな章が開かれました。10月2日に平壤で南北首脳会談が開かれ、朝鮮半島の平和定着について議論されました。したがって、北朝鮮がオープンな姿勢で北東アジア地方政府の集いに参加した場合、実質的なレベルでの経済と環境交流が可能になるものと期待しています。特に「北東アジアグリーンネットワーク」に北朝鮮が参加した場合、荒れた山林の緑化事業がより活性化するものと期待しています。

終わりに、最後で唯一の分断地域である江原道では、世界が参加する祝典の場を設けるため、「2018年冬季オリンピック」を平昌に誘致する取り組みを進めております。北東アジア地方政府は、「平昌冬季オリンピック」を通じて、**平和**の世界の祝典が江原道で開催されるよう、積極的にご支援くださるようお願いしたいと思います。

これまでのサミットでは、青少年、スポーツ、文化、研究事業などの幅広い交流協力を推進してきました。今回、提案しました「北東アジアグリーンネットワーク」と「北東アジア経済圏」が、北東アジアの環境交流と経済協力の礎になることを期待しております。

今回新たに設けられました教授協議会は、今後専門家グループとして大きな役割が期待されております。そして、このサミットの理論的で専門的なシンクタンクとしての役割をしてくれるものと期待しており、お祝い申し上げたいと思います。

そして、今回の会議を準備してくださいました、平井知事のご尽力に御礼申し上げ、ご清聴いただいた各地方政府の代表団の皆さまにも心から御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

【司会】

金知事様、ありがとうございました。引き続きまして、吉林省副省長、陳偉根様にお願いいたします。

【陳副省長】

尊敬する日本の平井伸治鳥取県知事、韓国の金江原道知事、ロシアのダリキン沿海地方知事、モンゴルのエンフバト中央県知事、そしてご来席の皆さま。

私は吉林省人民政府を代表いたしまして、「第12回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット」にご出席されました皆さまにごあいさつするとともに、会議の盛大な開催をお祝い申し上げます。また、この機会を利用いたしまして吉林省の省長、韓長賦吉林省長からのごあいさつを代わってお伝えいたします。

本日、北東アジア地域地方政府の代表がここに集まり、未来の発展のために協議するということになりました。まず、私は今回の会議のために多大な準備をなされました主催者側、鳥取県庁の皆さまに心から感謝を申し上げたいと思います。

北東アジアのサミットは 1994 年、韓国の江原道で初めて開催されて以来、今年で 12 回目になります。この協力体制のもとで、サミット関係地域の間で非常に安定した信頼関係、協力関係が築かれてまいりました。そして、各地域の皆さまから出された多くの建設的な提案がありましたが、それはこの地域の交流や共同発展を進める上で非常に大きな役割を果たしています。特に江原道が提案されました「第 1 回北東アジア地域大学教授協議会」が正式に設立されました。ここで、「大学教授会」に心からお祝いを申し上げます。

今回のテーマというのは「環境と交流」です。このテーマは鳥取県が提起されました。このテーマは非常にいいと思います。これは全人類共通の課題であります。世界は一つしかありません。この地球には私たち人類が一緒に暮らしております。ですから、この環境をよくするということは私ども人類に対して善を行うということであります。ですから、共に努力していく必要があります。これは共通認識であります。

「環境と交流」というテーマの目的は持続可能な発展を遂げるということです。「北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット」の趣旨とも一致しております。交流は発展の手段であります。環境は発展の保障です。良好な自然環境が無ければ、経済発展がどんなに速くても、人類の生存がかかっている自然環境を犠牲にすることになります。ですから、その存在意義を失っていくということです。私どもの国は経済発展を行っておりますが、経済建設の目標の一つというのは、生態省（自然環境を重視した省）を構築するということであります。

吉林省の自然環境は比較的優れております。中国でも数少ない森林都市であります。森林のカバー率が 42.5% に達しております。林地面積は 805 万ヘクタールありまして、山地、丘陵、平野がそれぞれ約 3 分の 1 を占めております。水資源も非常に豊富であります。非常に有名な川が幾つかありまして、全長 100 キロメートル以上の河川が 38 あります。松花江、遼河、図們江などがあります。そのうち最も長いものが、長白山天池を水源とした松花江であります。吉林省内を 920 キロメートルにわたり流れています。そして、地下の水資源も非常に豊富であります。また、豊富な鉱物、湿地、野生の動植物、森林の景観などもあります。ですから、吉林省は非常に優れた自然環境を持っております。

しかし、このように非常に生気に満ちた土地というのは、人類の心のこもった保護が必要です。経済発展に力を入れておりますが、大自然が与えてくれた再生可能な資源や、そして、再生不可能な多くの資源を活用するとき、私たちが忘れてはならないのは、その経済成長と引き換えに大自然を犠牲にしたり、破壊したりしてはならないということです。そうしますと、私たちは子孫に会わせる顔がなくなってしまうです。ですから、私どもは最小資源コストで、いかに最高の経済効果を得るかということです。それを研究する必要があります。自然資源がどれだけ豊富であっても、私たちはそれを浪費してしまいますと、すべてが無くなってしまいます。

吉林省は非常に高いスピードで発展しております。そして、高成長を持続しながら、基本的には安定を保っております。一部地域の環境の質の改善も見られております。生態環

環境の回復や建設も進められております。環境保護活動は非常に目覚ましい成果を挙げております。また私たちは、環境保護は長期にわたる任務であることも認識しています。今、環境が破壊されておりますが、流域の汚染も非常に深刻であります。ですから、生態環境保護の任務というのは非常に重いと思います。

まず水域ですが、工業排水や生活排水による汚染が非常に深刻であります。そして、都市のごみが300万トンに達しております。そして、都市は石炭などを使っておりますので、汚染も非常に深刻であります。大中都市の車の排気ガスの汚染も非常に深刻であります。そして、生態環境の破壊も非常に深刻であります。森林の保護や生物の保護、そして、中部地域の土壌流出、草原の砂漠化、アルカリ化、退化という減少が非常に深刻であります。これらの問題を解決していかなければなりません。

工業化や都市化に伴いまして、経済発展と環境の許容能力の間に衝突が起きております。これらの問題を解決しなければ、吉林省の経済と社会発展に大きな影響を与えます。ですから、私どもは国際協力を図り、海外の先進的な理念を取り入れて、持続可能な発展を立脚点とし、自然保護と経済発展を進めていきたいと考えております。

中国は発展途上国であります。国民生活の全体的レベルは低いということです。経済水準や技術レベルもまだまだ低いということが言えます。吉林省は、全国の各指標の順位で発展した都市と比べますとまだ遅れを取っております。しかし、それは今後の発展にさらに大きな可能性を与えるものともなっています。

地方政府としまして、国民の道德水準の向上、環境意識の強化、自然保護のための宣伝活動などを多くしていかなければなりません。まず、児童の教育からはじめ、教育に力を入れていき、そして、彼らが環境保護の重要性を根本から認識し、率先して模範を示すようにしていかなければなりません。そして、未来の後継者が幼いときから環境保護の概念を持ち、道德規範の遵守を自覚し、環境保護を一つの習慣としていくようにしていかなければなりません。

吉林省は、このように考えております。経済成長の過程で環境意識が遅れておりますので、さまざまなマイナスの影響が現れてきております。ですから、それに対応する対策を採っていかなければなりません。このような仕事を進めております。まず、産業構造の調整を速めております。そして、ハイテクなどを利用して、再生可能でクリーンな新エネルギーの研究開発を行っております。それによって、環境保護目的を達成しようとしております。

まず、水資源の保護に重点を置いております。飲用水の安全を確保しております。そして、さまざまな計画を作成しております。監督を強化しております。そして、違法行為に対しては断固とした取り締まりを行っております。松花江の管理を強化しております。そして、30の污水处理場を建設し、9つのプロジェクトを行っております。そして、なるべく水質が国の基準を満たすようにしております。

次に、生態の保護にも力を入れております。そして三つ目に、都市環境の質の改善にも

力を入れております。また、無公害処理に力を入れております。また、農村の生活環境保護にも力を入れております。

私どもは共にこの地球に属し、この「地球村」に暮らしております。このサミットにより、私ども北東アジアの五つの地域が一致団結して、人類共通の課題に立ち向かっていく必要があります。私たちは、さらに協力を進めていきたいと考えております。

次には、日本と韓国と交流を行った成果について、そして、今後努力すべき方向についてお話ししたいと思います。

まず1点目に、日本のJICAと協力して、吉林省高濃度有機排水管理プロジェクトを推進しております。吉林省の地下水汚染状況を調査しております。また、韓国のハナ（HANA）社と協力しまして、有害排水処理技術による処理を行っております。また、日本（JICA）と協力しまして、農村の畜産業の養殖汚水についての管理プロジェクトを進めております。また、日本の「草の根無償資金援助」を利用しまして、さまざまなプロジェクトを進めております。例えば、牛の飼育場の汚水処理などのプロジェクトも進められております。非常に効果が上がってきております。これからもさらにこのような協力を進めていきたいと考えております。そして、環境プロジェクトに投資をし、さまざまなセミナーも行っていきたいと考えております。

次に、環境に関する情報の交換を強化していきたいと考えております。酸性雨や海洋汚染、環境に関するさまざまな情報を交換していき、学者の相互派遣を行っていききたいと考えています。そして、さまざまな環境セミナーを開催していきたいと考えております。青少年の意識を高める宣伝なども強化していきたいと考えております。

ご出席のご来賓の皆さま、私どもは環境を保護していかなければなりません。これは各国の政府と国民共通の願いであります。中国政府は将来のためにこのような戦略を打ち立てております。つまり、持続可能な発展を進めるということです。

私どもは、直面している多くの問題がありますが、そういう問題に対しまして協力していきたいと考えております。ここで一つ提案したいことがあります。図們江の協力開発についてですが、それは非常に重要であると思います。「小異を残して大同につく」という原則に基づきまして、積極的に皆さんに参加していただきたいと思います。人、資金、技術、自然など、各種資源を合理的に配置し、少ない投入で最大の収益を得ることができるということです。ぜひ協力していきたいと思います。

北東アジアの国々の協力を得まして、吉林省は「北東アジア投資貿易博覧会」を3回開催しております。来年の9月に4回目の博覧会を開催いたします。ぜひ皆さんに参加していただきたいと思います。その期間中には、私どもは環境分野における交流のプラットフォームを提供し、そして交流を進めていきたいと思います。

最後に、もう一度主催者側に感謝を申し上げ、私の話を終えたいと思います。以上です。ありがとうございました。

【司会】

陳副省長様、ありがとうございました。続きまして、モンゴル中央県知事、ツェデブドルジ・エンフバト様にお願いをいたします。

【エンフバト知事】

尊敬する鳥取県知事 平井伸治様、江原道知事 金振旻様、吉林省副省長 陳偉根様、沿海地方知事 ダリキン・セルゲイ様、境港市長 中村勝治様、サミット参加代表団の皆さま。

何よりも、今日は皆さまの前であいさつできることを大変光栄に思います。そして、すべての中央県住民の名前のもとにごあいさつを申し上げたいと思います。本日は、日本国鳥取県境港市にて開催された第12回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミットに参加していることを大変うれしく思います。

このサミットは1994年の初開催以来、12回目を数えますが、今日までの活動は地域の国際交流、相互の連携及び協力をあらゆる分野に発展させるのに大変有意義な役割を果たして来たと思っております。

今回のサミット2007のテーマ「環境と交流」は、時代背景に即した重要な問題を取り上げたものであり、有意義な会議であることは疑いありません。これに関しては皆さまと同じ考えだと思います。

今日、我々が日常生活で直面している重要な問題の一つは、生活の源である自然環境の保全、生態系バランスの維持、破壊された自然の回復であると思っています。この問題は、一カ国における各々の問題ではなく、世界規模において協力し解決しなければならない重要な問題です。この問題の解決には、我々が共に協力していくことが最も正しい方法でありましょう。

皆さまに、モンゴル国並びに中央県の自然環境の状態について簡単に説明すると共に、現在取り組んでいる地域的な活動及び今後の活動について、皆さまの地域といかに協力していくかということに関して意見、提案を述べさせていただきます。

モンゴルには、あらゆる気候区分、地帯が存在しておりますが、中央アジアの極めて脆弱な環境を持っております。シベリア森林、中央アジア草原、アルタイ山脈、ゴビ砂漠といった、さまざまな自然環境を持っております。我が県は、地理的にはハンガイ、ヘンテイの山脈地帯、東モンゴルの平地地帯に属しており、面積は7万8,200ha、そのうちの森林は16.4%、36.5%は草原、ステップであります。

現在、モンゴル国内で行われている経済政策の変換や経済発展は急速に進んでおりますが、特定の工業による汚染や、個人並びに企業の不適切な活用による、動植物をはじめとする生態系への影響、ある種においては絶滅の危機に直面しております。そのようなことが非常に増えております。

世界規模で見れば、モンゴル国の自然環境の破壊はまだ比較的少ないと言われております

が、経済発展による環境破壊は、砂漠化を急進させ、土壌汚染、森林減少、水源枯渇、生物種の減少、都心における大気汚染、ゴミの処理問題など、さまざまな問題を引き起こしております。

今日の状況で、モンゴル国においては、湖や池、川などの枯渇が急速に進んでいる状態であり、自然災害、砂漠化が進んだ地域の一つとなっています。全国土の 40%が乾燥地域または砂漠地域になっています。70%は乾燥状態であり、特に我が県の領土の 90%は何らかの形で砂漠化の影響を受けています。

我が中央県には、石炭をはじめ、螢石、鉄鉱石、金、銅、タングステンなどの豊かな天然資源が存在し、多種の動植物が生息しています。それに関連し、鉱山業が急速に発展していますが、この産業を無政策に支援することは生態系に負の影響を与え、特に生物種の減少、または絶滅が大変危惧されている問題であります。そのため、県では現在 213 万 8,000Ha において法人並びに個人が鉱物資源探査許可を取得しております。これは全県の面積の 28.8%、県にある放牧地の 39.3%を占めています。採掘権が取得されている 2 万 8,000Ha の土地のうち、昨年までに採掘された土地は、9,800Ha に及びます。鉱物資源の探査権、採掘権を過剰に許可することは、地域住民及び遊牧民に深刻な被害を与えています。特に家畜の遊牧地の減少、遊牧地荒廃、過放牧につながり、水源および井戸の枯渇、汚染などの問題を引き起こしています。

また、農業や牧畜を営む土地の不足も問題となっています。我が中央県は、昨年より「鉱物資源に関する政策」を制定し実施しています。この政策では鉱山業、特に金鉱の無秩序な探鉱、採掘のために生じる問題を解消させ、自然環境、経済、当該地域住民の権益に重大な損害をもたらす事態の対策として、地域の自治体、機関、国家機関及び各種団体が協力して問題解決に当たることにしています。

名所、史跡、希少動植物の分布地や観光業のモデルとなる集約型牧畜生産地域を、県の特別重要保護区域に入れるなどの活動を実施しています。自然保護活動へ個人を参加させるために、2003 年より、冬遊牧地、春遊牧地を遊牧民グループに所有させることについて県知事の指令が出され、26 の町において、267 の遊牧民団体に森林および牧地 17 万 6,000Ha、1920 の冬の遊牧地、1202 の春遊牧地を契約によって保有、管理させました。

その他、地方レベルにとどまらず、国レベルで人口集中の中心である首都ウランバートルを囲んで位置する我が中央県においては、各種の要因により表土の劣化が進んでおります。特に牧草地の荒廃が非常に厳しい増加傾向にあります。研究によると、全土の 1.1%で人為的環境破壊及び自然体系の創出による土壌の汚染、劣化が見られます。劣化した土地の 46%には害虫の被害が出ており、33.2%は牧草地が破壊された土地、15.9%は耕作放棄地、4.5%は山火事にあつた土地、あるいは草原火事にあつた土地、0.4%は鉱山業活動により掘削された土地になっています。合計で 2,574 万 9,000Ha の土地が我が県の中で山火事、草原火事の被害に遭い、破壊されました。

次の災害級の危機的問題は、水源の不足です。我が国の水源は限られている上に、工業

活動による水の使用量は年々増えつつあります。鉱山業活動による水銀並びにその他の化学物質の使用は、人体や、それを飲料水とする動物の健康に影響を与え、また河川の汚染を引き起こしています。グローバル化、都心化の急速な発展に伴い、首都ウランバートルに人口が過度に集中し、地方からの移住者の増加は都心の大気汚染、ゴミの処理問題を引き起こしています。この問題は、この会議に参加する他の県においても同じかもしれません。これらの問題において、皆さま方と協力、経験を共有し、情報交換をするということは大変重要であると思います。

我が県としては、皆さまから学び、意見を聞き、情報を得ることは本当に重要な意義を持つのです。自然環境の保護、自然の適正な有効活用、破壊された自然の復元のために、地域間の協力が何よりも重要であります。我が県は江原道から出された意見に賛同、支持しております。例えば、各地域が協力して植林活動を行い、二酸化炭素を減少させる効果を宣伝し、北東アジア地域におけるグリーンベルトを拡大させる。または二酸化炭素を削減する方法や技術を互いに学び技術交換を行う。あるいはお互いに情報を提供し合う。今や人類全体の問題である地球温暖化気候変動を共同で解決するための開かれた環境プロジェクトを共同で行うなど、さまざまな意見を歓迎し、支持いたします。

私たちは、突然私たちを襲う自然災害時において、お互いに精神的援助にとどまらず、物質的な援助を行うというよき伝統を今後も一層確立、拡大していきたいと考えます。特に東アジア地域においては、台風が大きな損害を与えていることに我々は心を痛め、そして、我が県民による精神的、物質的援助を届けております。

北東アジア地域は自然環境における解決すべきよく似た問題を抱えており、それらの問題に対して共同で協力して解決する自然環境分野での何らかの協議機構を設立すればいいのではないかという鳥取県の提案も私たちは支持し、賛同いたします。

鳥インフルエンザ、その他の動物の感染症についての情報交換、それぞれの地域において行われている活動について、ただ情報交換のみにとどまらず、その予防や問題の発生時の対処法について、意見交換または協力活動を行うことができると考えています。

私たちは自然環境のみならず、その他のあらゆる必要性のある部門において協力することが互いのさらなる発展をもたらすと考えています。

私たちは、地域政府の共同意見に従った地域の行政機関レベルにおける教育交流について、教育部門での意見交換、情報通信による積極的な協力活動、並びに大学教授協議会の創設と協力活動について、江原道の提案を歓迎、支持し、今後もこのような協力活動に我々が協力して積極的に取り組んでいき、広げていくべきだと考えています。

我が県といたしましては、自然破壊劣化、砂漠化及び山火事の予防について、他の地域より技術・経験を学び、専門的な人材の育成や財政的な支援を含む援助・協力を提案したいと準備しております。皆さまが私たちの提案を応援してくださることを期待しております。今回のサミットは、互いの相互理解と相互信頼を深め、互いに発展をしていく上で重要な役割を果たす素晴らしい活動となることを確信しております。

皆さまの今後のご活躍と発展をお祈りします。環境を守り、幸せに安寧に生活しましょう。ご清聴ありがとうございました。

【司会】

ツェデブドルジ・エンフバト様、ありがとうございました。続きまして、平井伸治鳥取県知事をお願いいたします。

【平井知事】

尊敬する韓国江原道 金振旿知事様、尊敬する中国吉林省 陳偉根副省長様、尊敬するロシア沿海地方 ダリキン・セルゲイ知事様、尊敬するモンゴル中央県 ツェデブドルジ・エンフバト知事様、お集まりの皆さま。

このたびのサミット開催に当たりまして、皆さまのご協力を得て、このように滞りなく開催させていただいておりますことを深く感謝を申し上げたいと思います。本日のこの会議が実り多いものになりますよう、お祈りを申し上げる次第であります。

さて、北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミットは、1994年に江原道の束草市で開催されて以来、今年で12回目となりました。この間、本サミットで意見を交わし、各地域の合意を得まして、美術作品展示会、取引商談会、観光促進協議会など、さまざまな事業が展開されてきました。2005年のサミット合意を受けて創設されることになりました「北東アジア地域大学教授協議会」の第1回会議も本サミットに先立って開催し、成功裏に終わりました。その他、さまざまな分野におきまして地域間交流事業が実施され、交流が深まることによりまして、各地域が強い絆で結ばれてきたと実感をいたしております。今後とも、本サミットの体制を維持し、各地域がさらに密接に交流・協力して、地域内の発展及び安定に貢献していかねばならないと考えております。

このたびのサミットにおきましては、「環境と交流」をテーマとして設定いたす所存といたしました。地球温暖化に伴う影響は世界各地で顕在化しておるところでございまして、今後、社会・経済に甚大な影響を及ぼす恐れが高くなってきております。本年6月には、ドイツのハイリゲンダムで開かれましたサミットにおきまして、地球温暖化問題への最重要課題の一つとして取り組むことが了解されました。2050年までに世界規模での温室効果ガスの排出量を少なくとも半減しようという我が国等の提案を真剣に検討することとなりました。

これからの世界の気候変動、並びにそれに伴うさまざまな影響に対して、それぞれの国や地域が二酸化炭素の削減技術や省エネ技術などを開発し、具体的な取り組みを進めることが必要であります。来年の洞爺湖サミットにおきまして、政府間レベルで地球温暖化防止につき活発に議論されることと思いますが、本日の北東アジア地域サミットで地球環境問題の解決に向けた先駆的な取り組みに発展するよう、私たちは議論を成すべきだと考えます。

さて、地球環境問題といたしまして、北東アジア各国の共通の問題としては、砂漠化、またそれに関連する黄砂の問題について取り上げなければならないと思います。I P C C 第4次報告におきまして、一層の地球温暖化の進行が指摘されており、このサミット参加地域の中でも吉林省西部地域、モンゴル中央県などにおきまして、砂漠化の進行がみられることは周知のとおりであります。鳥取県でも、2000年頃から黄砂の飛来日数が増加し、黄砂の濃度も悪化傾向にあります。北東アジア地域の共通の課題として、一層の心配がなされるところであります。

国レベルにおいても、2003年から、日本、中国、韓国、モンゴルの4カ国におきまして、国際機関とも連携し、黄砂の観測、発生源対策の取り組みが進められているところです。本年9月には日中韓の環境担当局長会議が開かれまして、中国内陸部における発生源の監視や早期警報システムの構築など、モンゴルの参加も得た上で、来年の前半にも共同研究を開始するよう決定がなされたところであります。

本県は、中国の砂漠緑化に心血を注いでこられました、今は亡き元鳥取大学名誉教授の遠山正瑛氏が研究に取り組み、実践活動の発信源となった土地であり、乾燥地帯の国際的な研究機関である鳥取大学乾燥地研究センターも立地しております。北東アジア地域の持続的な発展のためにも、砂漠化や黄砂問題に積極的に取り組まなければならないと考えております。

現在、県の衛生環境研究所で有害大気汚染物質等の調査も開始しており、これらの調査結果を北東アジア地域の皆さんと共有したいと思います。そして、各地域の健康被害の防止などに貢献できればと考えます。このような観点で、このサミットで今後、広域的にモニタリングをするなど、実務者レベルで北東アジア各国が取り組んでいる黄砂問題に関する情報交換や各種被害の軽減を図る上での研究をすること、その共同化を提案させていただきたいと思います。

次に、環境問題の解決には行政だけでなく、個人や企業など、また民間の団体の方々など、さまざまな主体で行動することがぜひとも必要だと考えます。既に各地域におきましても環境活動が活発に実施されていることと考えます。

本サミットの会場の南西には、ラムサール条約登録湿地である中海があります。この中海はかけがえのない資産であり、後世に引き継ぐべく、地域住民が中心となって水質浄化などの取り組みを積極的に進めてきました。2005年11月にはラムサール条約に登録され、その環境保全と地域資源としてのワイズユース（賢明利用）に取り組んで、一層活発化してきております。これは、いわば県内の環境活動のセンターをなすと考えられます。

鳥取県では、隣接する自治体や国の機関とも連携し、総合的な水質浄化対策を計画的に進めることといたしておりますが、従来からの下水道整備、あるいは流入負荷削減対策に加えまして、住民の皆さまと行政が協働して湖沼環境保全活動や自然再生活動に積極的に取り組んでいかなければならないと考えております。

この中海には、西日本最大のコハクチョウの集団越冬地で、山陰屈指の野鳥の生息地で

ある米子水鳥公園があります。先ほどダリキン知事がおっしゃいましたが、水鳥たちに国境はなく、この地域を自由に往来しているわけであります。財団法人中海水鳥国際交流基金財団はこの公園の管理をし、多くの県民に対しまして自然環境への理解を深める機会を提供しております。7月には、韓国安山市で開催されました「日中韓国国際子ども湿地交流」におきまして、中海の紹介や保全活動を発表させていただいたところであります。さらに、鳥をテーマにして環日本海国際交流や野生鳥類の調査研究も実施されており、ロシア・カムチャッカにおける水鳥の中継湿地での水生植物の調査や「東アジア地域ガンカモ類重要生息地ネットワーク」の国内コーディネーターとして幅広い交流に取り組んでいるところであります。

渡り鳥の標識調査などを共同で実施し、渡り鳥飛来ルート of 広域的な把握により、北東アジア地域に生息する野鳥の保護対策を一層進めることを検討してみたいと考えています。この飛来ルートの把握は、鳥インフルエンザ問題の抜本的な対策にもつながると考えます。

野鳥などの生態系の保護のみならず、ラムサール登録湿地など各地域の豊かな自然を賢明利用すること、また優れた自然環境を有する各地域がその地域資源を環境問題の学習の場として活用するエコツーリズムを推進することが必要だと思います。これらの取り組みは地球環境問題への対応として、また、地域の環境の保全活動にも大きく寄与するものがあります。本サミットの会場となりました県の西部地域では、大山など、当地の自然を最大限に活用したエコツーリズムの取り組みが始まったところです。北東アジアの各地域におけますラムサール条約登録湿地などの賢明利用やエコツーリズムの情報の共有、交換を通じまして一層推進が図られるということを期待したいと思っています。

本サミットにおきまして、北東アジア地域におけるこれらの各種の活動を交流させ、その情報を交換し、持続的発展が図られるよう、協力体制を一層進めたいと考えています。

環境分野の他にもさまざまな分野において、互いの交流・協力が必要だと考えております。例えば、「北東アジア地域大学教授協議会」の第1回が開催されましたが、この共同発展にサミットと教授協議会が一層の協力を進めていくことが必要だと思います。

また、経済産業面での共同発展のために、産業に関する情報交換、既存路線の活性化や新規路線の開拓にも取り組んでいくことが必要と考えております。ご高承のこととは存じますが、鳥取県には米子空港と韓国の仁川空港を結ぶ国際定期路線がございますが、搭乗率の伸び悩みから路線維持が非常に厳しい状況に立たされております。しかし、鳥取県から北東アジア地域につながる唯一の国際航空路線であり、鳥取県、そしてこの地域にとり重要な路線であると考えます。関係地域の方々にもぜひご協力いただきまして、発展させていきたいと思っています。

さらに、海上での交通を考える必要があります。韓国の束草、ロシアのザルビノ、日本の新潟まで含めて北東アジアフェリー航路を結んではという準備構想が進められていると

ころであります。鳥取県としましては、せっかくこうした北東アジア地域での協力がこれらの地域の間で進められているところでもありますので、境港にもこうした航路が寄航するなど、海上交通をお互いに結び合うことをご提言申し上げたいと思いますし、皆さま方の格別のご協力をいただきたいと思います。

次に、各地方政府が交流を深めていく上での重要な要素として、地域の将来を担う人材の育成が必要であります。相互理解を深める上でも各地域が協力して交際交流など、人的交流を進めていくことが必要と考えます。

また、鳥取県では、三朝町にあります「三徳山」の世界遺産登録の推進運動を行っておりますが、さらに 2009 年には「地域伝統芸能全国フェスティバル」を開催することといたしております。これらは各地域で取り組まれている活動と密接に関連いたしますし、それぞれの相互の発展にも貢献するものであり、皆さま方のご貢献、応援をお願いしたいと思います。

これらのほかにも、文化芸術活動、スポーツ、教育、青少年交流などさまざまな分野の積極的な交流を進めていくことが大切でありまして、今後とも多様なプログラムの強化を進め、民間の友好交流活動、交流分野の拡大を図り、共同での努力を一層推進することが必要だと考えます。

ダリキン知事にロシアの外務省からメッセージが寄せられましたが、私どものサミットに対しまして日本国政府からも高村外務大臣、増田総務大臣からメッセージが寄せられております。

高村外務大臣からは、「今般、韓国江原道、中国吉林省、ロシア沿海地方、モンゴル中央県と鳥取県の首長が一堂に会し、「北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミット」を鳥取県境港市で開催される運びになりましたことを心よりお祝い申し上げます。この会議は、北東アジアの地域間の交流・協力及び共同发展を話し合う貴重な会議であると考えます。特に本日の会議においては、地球温暖化をはじめとする環境問題が取り上げられると承知しています。我が国政府としては、中央政府レベルに加えて地方政府の協力の下に地球規模の課題である環境問題に取り組んでいくことが極めて重要であると考えます。今回の会議が今後の各地域の一層の交流と協力に寄与していくことを期待いたします。2007 年 10 月 31 日 日本国外務大臣 高村正彦」というメッセージをいただいております。

また、日本国総務大臣 増田寛也大臣からも同様のメッセージをいただいております。このようなメッセージをいただきましたことを知事様方にもご披露申し上げたいと思います。

以上、鳥取県からの報告といたします。どうもご清聴ありがとうございました。

【司会】

平井伸治知事、ありがとうございました。各地域の皆さまに基調発言をいただいたところで少し休憩を挟ませていただきたいと思います。再開は午前 11 時 15 分とさせていただきます。

きます。よろしくお願いいたします。

<休憩>

<「環境子ども交流事業」ビデオ上映>

【司会】

それでは、これよりフリーディスカッションにより、討論を進めていきたいと存じます。各国の代表の皆さま方にはいま一度壇上へお上がりくださいませ。

フリーディスカッションの進行は、平井伸治鳥取県知事が行います。それでは、平井知事、よろしくお願いいたします。

【平井知事】

それでは、早速議事に入りたいと思います。実はこの後の行事の関係もありまして、12時20分にはこの討論を閉じたいと思いますので、どうかご協力をお願い申し上げます。また、同時通訳の設備を使っている関係から、できるだけゆっくりとはっきりとご発言いただきますよう、お願いを申し上げたいと思います。

ただ今、皆さまと一緒にビデオを観ました。子どもたちの地球環境問題についての活動のビデオでありました。子どもたちは、自分たちの健やかな成長を本能的に願っているのだと思います。ですから、それぞれにリサイクルの活動や生態系の保護など、いろいろな問題意識を持って積極的にそれぞれの地域、国を超えて取り組んでいることが分かったと思います。

私たち大人たちの責任というのは、今のこの自然環境をしっかりと保全をして、経済成長と調和的にその維持を図ることだと思います。このために地域を越えた協力をこのサミットの間でも合意ができればと思っております。

さて、先ほどさまざまなご提案がございました。そういう中でも非常に深刻な話かなと思って聞いておりましたのは、エンフバト モンゴル中央県知事の方から、実は中央県の中では90%砂漠化が進んでいるという話でありました。この砂漠化は、黄砂がお互いの地域を飛来することに直結しております。中国の中央部の方、そしてモンゴルとの境の辺りから、江原道、吉林省、沿海地方と黄砂が飛んだり、また江原道、日本、鳥取県と黄砂が飛んだり、そういう飛行が実際にあるわけであります。

この点につきまして、まず中央県の方から、順次砂漠化防止問題とか黄砂対策についてコメントをいただければと思います。あるいは、どなたかお話しになりたいことがあったら手を挙げてくださっても結構ですが。最初は順番にやらせていただいて、あとは自由にいきたいと思います。では、エンフバト知事さん、お願いします。

【エンフバト知事】

私の発表の中で申し上げた、中央県の 90%が砂漠化の影響を受けているということに関して、我が県の政策の中心におくべき問題となっております。砂漠化を私たちは何でもって評価しているかというと、我が県の領域において、まず河川が消えつつある、泉や湖がどんどん消えつつあるということで明らかになっているわけです。特に表流水の利用が非常に厳しくなっています。水をいつも深い地下から取らなければならなくなっているわけです。もともと内陸の乾燥したところにある国、県として、このような状況は牧畜や農業には非常に厳しい状況をもたらしています。その意味で、今日の発表ではこのことを強調したわけであります。

ここにお集まりの皆さま、その他の県の皆さまも同じように、多くは海が近く、湿潤な国であるため、我々の国のような砂漠化ということに関しては、まだ我々ほど理解してもらえないかもしれませんが、湿気がないということ、これは何の植物も生えない、植物が非常に少なくなる、草が無くなる。モンゴルでは移動牧畜なのですが、草が無くなることによって牧畜が非常に厳しい状況、生活が苦しくなるということに直接的に影響します。

また、最近では異常気象ということで、夏に異常に暑くなる、非常に高温化しているということ、高温化と同時に乾燥化ということが観察されています。高温と乾燥、そして風が吹くことによって先ほどご指摘のあった黄砂をもたらすということ、これは地域における非常に重要な問題となっております。

皆さまに今日のこの会議でもう一度強調し、提案申し上げたいのですが、このサミットの活動は、県のみで提案しているのではなく、この会議は国や政府からも歓迎されているということが今日の会議で明らかになりました。沿海地方の知事の発表では、ロシア外務大臣からのメッセージが寄せられましたし、日本の外務大臣からもメッセージが寄せられているということは、私たちの会議がただ地方政府のみにとどまることなく、国としてもこれが重要な会議であるという認識になっていることを再確認したいと思います。モンゴル国の外務大臣もこの環境問題が今回のテーマであるということに関して、外務副大臣の方から私どもに「この会議の成功を祈る」ということを仰せつかってまいりました。このことを今この発言の機会を借りて皆さまにお伝えしたいと思います。

また、サミットでの協議であります、それぞれの県、地域において、実行すべきことは実行しなければなりません、また会議が行われたときに、この会議の場でこのような宣言が出された、このようなことが話し合われたという成果に関して、中央政府、国の政府に対して情報提供していくことが我々参加者全員の任務であると思います。このことについて、皆さまにあらためて提案したいと思います。

環境に関するさまざまな負の影響が出ていること、これは国際的にすべての人が責任を持って対処しなければならないということで、国際機関に対しても我々の宣言書や我々が話し合った結果をアピールしていくことが大事だと思います。ご清聴ありがとうございました。

【平井知事】

ありがとうございました。では、次に金知事から。

【金知事】

三つのことだけ、簡単にお話ししたいと思います。第一に、このサミット、そして我々が目指している北東アジア経済圏の形成、こういった目標を達成するためには、他の地方政府もちろん重要ですが、特に沿海地方の参加と役割が極めて重要だと以前から強調してまいりましたし、意識してまいりました。今日出席なさったダリキン知事が、これまでになく強い意志と情熱を持ってお話ししてくださいました。ダリキン知事は、前回の会議にも出席してくださいましたし、今年の会議にも出席してくださいました。そして、来年初めてウラジオストクでこのサミットを開催するともお約束をしていただきました。その点について大変勇気付けられ、感謝したいと思います。参加者全員がダリキン知事に感謝の拍手をしてはいかがでしょうか。ありがとうございます。

二つ目ですが、このサミットのテーマである「環境」について宣言をいたします。環境宣言自体が大変重要な意味を持っていると思います。これがスタートです。今後重要なのは、何よりも実行力を持つことだと思います。その実行というのは、大げさなことをやる、すべてのことをやるというものではありません。この五つの地方政府の専門家協議会を立ち上げて運営し、そこで調査・研究から始めたいと思います。そして、実践できる小さなことから一つずつ決めて、いち早く実行に移す努力をする必要があると思います。そして実行の方法としましては、先ほどエンフバト知事からもお話しがありましたが、例えばモンゴルの植林キャンペーンを共同でやるとか、そういったものも一つのいい方法だと思います。とにかくこのようなプロセスとアプローチを通じていち早く実行することが重要だと思いますので、そこに総力を挙げたいと思います。

三つ目ですが、今回教授協議会が新たに設けられ、先ほど報告もありましたけれども、かなりの成果を挙げたと評価しております。ご存じのように、教授協議会というのは大きなメリットがあります。まず、研究する専門家グループであるわけですね。ですから、そこからアイデアの提供を受けることができます。そして、大学にはあらゆる分野の専門的な人材があるわけです。それがまた大きな一つのメリットであります。強みであります。地方政府のリーダーというのは、短期間に代わる場合もございます。しかしながら、大学の教授グループというのは長期にわたって代わりませんし、長い間研究をしていらっしゃる。ですから、そういった側面で五つの地方政府の協力と関連して、一貫性を保つことができるというメリットがあると思います。ですから、今後五つの地方政府はそれぞれ大学教授協議会の役割と参加と活動のために、強力に支援をし、活動を強化できるようにしたいと思っております。

それから、今回環境がテーマとなっておりますが、環境というのはどのテーマより大変、火急なテーマだと思います。ですから、大学教授協議会の方で、環境に関連する専門家の

グループをつくって研究課題をこなしていただければと思います。それに基づいて五つの地方政府が協力をして方向を示すということを提案を兼ねてお話ししたいと思います。以上です。

【平井知事】

ありがとうございました。江原道知事から全般的に取りまとめをする上で重要なポイントが示されたと思います。お話の中にありましたけれども、環境についての宣言をサミットとしてやるべきということがありました。この点、環境交流宣言というべきものを私たちがこの場で出すことについて、特にご異議がなければそのように取りまとめ調整したいと思います。よろしいでしょうか。

あと、国に対して要望するといいますか、各国政府にも私どもの取り組みを働きかけるべきだという、エンフバト知事の話もございましたので、それも環境交流宣言に合わせて付記することとしたいと思います。

それから、教授協議会につきまして、今お話がございましたが、環境の問題もぜひ取り上げていただきたいという要請をしたいと思います。せっかく今、環境の話が続いておりますので、この点について、沿海地方さん、吉林省さん、コメントがあればいただきたいと思うのですが、いかがでしょう。では、ダリキン知事、お願いします。

【ダリキン知事】

ありがとうございます。尊敬する同僚の皆さん、私が申し上げたいのは、サミットの議論の場に、次のような提案をしたいと思います。

環境問題を議論するときに、今、この地方にある原子力、核の問題を避けて通ることはできません。これは沿海地方にある原子力潜水艦の退役潜水艦の問題、それから日本の原子力発電所の問題、稼働中の発電所ではありますが、去年も今年も新潟において起きた地震、これは私たちにとって大きな懸念を引き起こすものであります。ですので、真剣にこの問題に取り組むという観点から、教授協議会にこの問題を取り上げてほしいと思いますし、私たち行政府としても教授協議会に対して支援をしていきたいと思っています。

そして第二に、吉林省がファイナンス面での支援を環境問題に行っていること。特に、松花江の水質浄化について非常に大きな金銭援助をしてくださっていることに感謝したいと思います。これは大きな問題であるし、今後も考えていくべき問題であります。

また、さらに日本海の生物資源の問題があります。私たちは真剣にこの問題を取り上げていく必要があると思います。なぜならば、自然というものには空白地帯があってはなりません。そして、ある種の生き物が姿を消すというようなことがあってはなりません。そういった意味で日本海の生物資源を守るということは非常に重要な観点であり、この点で日本にも努力をしてほしいし、既に日本の水域にはおらず、ロシアの水域には残っているカニや一定の種類魚もたくさんあります。こういったものを一緒に守っていかなければ

ならないし、漁業面での密漁であるとか、不法な漁獲、あるいはそういったものを買取ることがないようにしていかななくてはなりません。この点で私たちが統一した政策をつくり上げ、統一した方針に沿って日本海の生物資源を守っていく必要があると思います。

さらに、この機会を利用いたしまして、ただ今の江原道の提案を私は支持いたします。そして、シドニーでのG8サミットにおいて、ロシアは韓国におけるオリンピック開催を支持いたしましたし、このことが私たち北東アジア地域全体において大きな発展の刺激になると考えております。

また、フェリー航路についてであります。新潟だけではなく境港にぜひ寄航してほしいと考えています。私たちロシアの会社は、大きなフェリーをあと2隻買うことを考えており、このことによって寄港地を増やすということも考えております。

さらに、朝鮮半島の問題であります。このサミットの機会を利用して韓国の江原道の知事様、そして参加首長の皆さま方とこの問題を協議し、朝鮮半島の問題が前進するように私たちとしても協力していきたいと考えます。

そして、サミット参加者の皆さま方、2008年であります。ウラジオストクにおける第13回サミットにぜひご参加いただき、北東アジアの国境を越えた経済というものを取り上げていきたいと考えております。そして、その中で人的資源、自由な貿易、ファイナンス、経済のグローバル化、そして経済と環境の問題、さらに応用化学の問題などを取り上げていきたいと考えております。このような提案を次期ウラジオストクのテーマとして皆さまにも考えていただきたいと思います。ありがとうございます。

【平井知事】

どうもありがとうございました。ダリキン知事から環境問題、そのほかの課題についてご提案をいただいております。まず、原子力関係につきまして、国によっては国がかなり大きくかかわっているところだと思っております。学術的な研究の場面で核廃棄物の問題などを研究の中に含めるという要請をすることがいいということだと思っております。

それから、吉林省とロシアの沿海地方とで共同して行われている松花江の浄化対策であります。これは私も鳥取県も調査研究の関係で吉林省と協力してやってきておりました。こうしたさまざまな調査研究などのレベルから、先ほど金知事がおっしゃいましたように、環境についての関係地域間での協議組織、連携組織を設立してはどうかというご提案がありましたので、この方向で我々は考えていったらどうかと思います。

それから、日本海という共通の海を生物が豊かな豊饒の海にあらためて変えていく必要があるだろうと。これは漁業資源の枯渇を防止するための共同の取り組みを国家レベルで今やっているわけでありまして、県も当然そうした分野に一部かかわっております。ですから、このことも環境交流宣言の中で国に対して求めたり、地域での取り組みを促すこととしてはいかがかと思っております。

そのほか、また後ほど扱いたいと思っていたのですが、フェリー航路を境港にも寄港さ

せてはいかがだろうかという力強いご提言をいただきました。こうした経済貿易の交流の促進を実体的に行っていくことがそろそろこの地域に求められていると思います。

また、江原道の平昌オリンピックなど、国際イベントを地域で支援をしていくことも確認できようかと思います。朝鮮半島の課題についても触れられましたけれども、いろいろと後で我々としてのアピール文の作成にあたって協議したいと思います。

それから、吉林省の陳副省長からコメントをいただければと思います。今、環境問題を中心に話しておりましたが、だいぶ他にも広がっておりますので、そこは自由にお考えいただいて結構です。

【陳副省長】

ありがとうございます。今日は非常に意義深い会議だと思います。五つの地域の指導者がそれぞれの考え方を述べましたし、また教育において、さまざまな関心のある問題なども定義されました。私も非常に刺激を受けましたし、そして皆さまが提案されましたご意見を支持します。

私は環境保護について幾つか考えておりまして、先ほどのご発言にも賛同します。私の考えとして、まず1点目は環境の保護、そして資源の節約は青少年のレベルから始めるべきだと考えております。鳥取県が先ほどビデオでご紹介されました子どもの交流は非常に有意義だったと思います。環境を守っていくということはすぐにできることがなかなかありませんが、世界各国にとって何世代にもわたって努力することによって守っていかなければならないと思います。

やはり、その中でも子どもたちの世代が非常に大事でして、子どもたちが小さいときから環境や資源について、それが人類の発展にとっても大事だということを知る必要があります。それが分かって初めて大きくなってからもどうやって環境を守るかということの知恵が働くと思います。何が出来るかということも分かると思います。私は先ほどのビデオで吉林省の子どもが「紙を節約することから始める」と言っていましたが、非常に大事な考えだと思いました。1滴の水、1枚の紙から節約を始めていくことが環境保護の第一歩だと思います。自由化が進んでいますが、その中で環境をおろそかにしてはいけませんので、環境保護のためにやっつけていかなくてはなりません。

そして、政府もそのためにいろいろしなくてはなりません。先ほど言いましたように子どもたちに早い段階から教育をし、そして資源の大事さを教えていかなければならない。これができて初めて全人類の環境が守られていくのだと思います。この活動は非常に意義深いと思いますので、我々は宣言の中にこのことを盛り込んでいただきたいと思いますと考えております。これが1点目の私の提言です。

それから2番目ですが、環境を守っていくこと、それは全人類の責務です。私たちはすべて北東アジアに位置する地方政府です。中央政府の力のもとで環境保護をやっているだけでなく、我々地方レベルでも同じようにいろいろなことができるのではないかと思います。

ます。環境保護のために共同でやっていくこともできますし、それ以外にも自ら率先してやっていくべきこともいろいろあると思います。自分たちの地域の資源を守っていくということを一步一步着実な動きとしてやっていくこと、それが最終的には地域全体に広がるのだと思います。

吉林省は環境保護のために自分たちができることをやっています。そして、水の資源を浄化するなど、これについて我々も計画を持ってやっております。そのために污水处理場も随分つくりましたし、また九つの地域で工業の污水处理をするようなプロジェクトをやっております。先ほど沿海地方知事が松花江のことを話されましたが、これは我々も確かにやっております。

また、資源を節約する、エネルギーを節約する必要があると思います。吉林省はトウモロコシの生産量では非常に大きな生産高がありまして、輸出製品をさらに高いレベルにしていこうと頑張っておりまして、またトウモロコシからアルコールをつくっていく、それを石油資源に転換していくことに力を入れております。また、都市環境の改善にも力を入れておりまして、古くなった工業などを淘汰する、いわゆる小さな工場、あまり環境によくないような発電所、大体 900 万キロワットほどの発電所を閉めました。それだけではなく、農村に汚染処理センターをつくったりということもしております。このように、各地方の政府が資源の節約、環境保護のために着実な一歩を進めていけば地域全体の環境保護によい貢献ができると思っております。

3 点目ですが、各国の間で技術、そして学術交流を深めていく必要があると思います。先ほど大学教授協議会が立ち上がったというお話がありましたが、我々サミットの間でこれを設立することは非常に素晴らしいと思います。また、学術交流以外に技術交流も必要であるとは私は思います。その中での協力が必要です。私どもは既に日本や韓国の企業とさまざまな技術協力によるプロジェクトをやっておりますし、県レベルでもやっております。

また、毎年、北東アジア博覧会をやっておりまして、来年 9 月には第 4 回の北東アジア博覧会が行われます。そのときにはぜひ専門性のあるフォーラムをやりたいと思っております。専門家の方、大学の方々に集まっていただくフォーラムのような形で、環境保護や技術に関して話し合えればと思っております。日本の皆さんは環境保護の技術について、非常に進んだものを持っていらっしゃるの、それをぜひフォーラムで話し合ったり、紹介したりということをしていきたいと考えておりますし、各地域の皆さまが今最も新しい技術などを第 4 回の博覧会で展示するなり、ご紹介いただければ我々各国及び地方政府にとっても環境保護を進めていく中で非常にいい役割を果たしてくれるのではないかと、意義があるのではないかと思います。ありがとうございました。

【平井知事】

ありがとうございました。環境につきまして、環境教育を一層推進する必要があるだろうというお話がありました。確かに、先ほどの子どもたちの環境に対する国際的な取り組み

みを見ておりますと、小さなうちから環境に対する意識と実践活動を育てていけば将来にわたって地球環境の保全に役立つだろうということが予想されます。ですから、教育のことも環境交流宣言の中に入れることで調整をさせていただきたいと思います。

そのほかにも技術や学術の交流などについての提言もありました。

以上、それぞれの地域から環境を中心にしてお話が出てまいりました。若干この点だけ取りまとめをさせていただこうと思いますが、我々は今日この機会に環境についての宣言を通常行います地方政府サミットの共同発表文とは別に用意したいと思います。その中でさまざまな論点、生物資源の保全の問題ですとか、あるいは砂漠化の問題、またそのほかにも教育の問題、あるいは政府に対する働きかけ、そういった観点を盛り込んで成文化を速やかに行いたいと思います。その中で、皆さまの共通理解として、お互いの地域が共同して行う調査研究などをまずは始めてみる、技術協力なども含めて始めてみる、共同組織をつくろうということも盛り込んでいかかかと思っています。以上、環境についての議論の取りまとめをさせていただきました。

そのほか、本地基調講演の中でも産業経済の問題、国際的なイベントへの相互協力、大学教授協議会との協力関係などの議題が出ておりまして、これらを若干残された時間で掘り下げたいと思います。

まず、産業経済の観点で、先ほど沿海地方のダリキン知事から、フェリーなど航路をお互いの地域の間で開いてはいかかかという具体的な提案がありました。これと関連して、江原道の金知事の基調報告の中で、北東アジア経済圏を確立しなければならないという観点で、北東アジアとユーラシアを結ぶ大動脈をつくる必要があるというご提言がありました。また、ダリキン知事から、東草、ザルビノ、琿春といった貨物旅客の路線を設定する提言もありました。これら2点を若干深めて共同発表の中に盛り込む必要があるかと思いますが、金知事、この点について少しコメントをいただければありがたいと思います。

【金知事】

平井伸治知事からお話しいただきました部分、非常にうまく整理されていると思います。北東アジア地域で重要なのは、共同経済圏の形成であります。その第一歩は、物流の流れをつくるということでもあります。そういった側面から、共同声明文に含めるというのは望ましいことだと思います。賛成したいと思います。

【平井知事】

ダリキン知事から、補足的なコメントがあればいただきたいと思います。

分かりました。それでは、この点も先ほどの基調講演の内容を中心として盛り込んでいきたいと思っています。

中央県のエンフバト知事、今、手が挙がりました。

【エンフバト知事】

環境交流宣言を別に出すということに関して、非常に重要だと思います。これに関して共同研究という話が出ていますが、さらに広報宣伝のことを入れたらどうかという提案をしたいと思います。どのように情報を広報していくか、これについて他地域の方々の意見をお伺いしたいと思います。広報に関して一事項入れたらどうかという提案でございます。

【平井知事】

ありがとうございました。それでは、これも特に異論はないと思います。広報とか、民間の皆さまに対する呼び掛け、そうした民間との協力関係の確立なども含めましてお互いに調査研究したり、ノウハウを交換し合う、そういう場として共同機関を設定するというものでいいかと思います。

次に、産業経済につきましの議論を総括しますと、我々は物流をはじめとして、また合わせて人的な交流の基盤を共通の課題として地域で追及していこうという合意ができたと思います。北東アジアフェリー航路を境港に寄港させる、あるいは東草、ザルビノ、琿春の物流ルートを確立する、ユーラシアから韓国に抜けて、さらには日本へも影響があるというお話がございましたが、そうした鉄道などのルートを確立する。こうしたことをお互いにこれからの共通の課題として目指していこうということだと思います。米子ソウル便など、人的交流の基盤にも言及していただければと思います。そういうことを通じまして、江原道知事のお言葉を借りれば、北東アジア経済圏を樹立していくという方向性を共通認識として持ちたいと思います。

次に、若干補足をしていただきながら取りまとめをしようかと思いますが、国際的なイベントについて協力し合おうというご提言が幾つかありました。私ども鳥取県からは三徳山の世界遺産登録を推進すること、地域伝統芸能フェスティバルへの皆さま方のご参画を求めることを提案させていただきました。

そのほかにも幾つかご提案がございます。平昌冬季オリンピックについては、これは金知事はじめ、江原道の道民の方々の熱意で実現を目指してきましたが、今いったんは国際オリンピック委員会で見送られたことになっております。ただ、金知事は、リーダーシップを発揮してあらためて平昌オリンピックを世界に働きかけていきたいと決意をされています。先ほどダリキン知事から賛成するというお話もございました。これについて共通の理解として、我々としても応援するということがよろしいかなと思いますが、金知事、もしコメントがあれば。

【金知事】

どうもありがとうございます。

【平井知事】

この点は共通理解とさせていただきたいと思います。

それから北東アジアの投資貿易博覧会への参加呼び掛けが吉林省からありました。この点、もし補足していただけるようであればコメントをいただければと思います。

【陳副省長】

投資貿易博覧会は、これまで3回ほど行いました。会を重ねるごとに参加者が増えておりまして、規模も拡大しております。そして、ご臨席の皆さまも多大な支持をくださいました。3回続けて団を送っていただきました。そして、来年第4回目を迎えることとなりますが、その規模はさらに拡大し、内容もさらに充実すると見込んでおります。

投資貿易博覧会は四つのパートからなっています。一つは商品、吉林省のものも展示する予定であります。素晴らしい特産品もぜひ展示していただきたいと思います。そして三つ目としては国際会議というパートですね、もちろん環境保護を含めた会議があればいいと思います。また、投資貿易に関する交流会も行われるでありましょう。北東アジア六つの国が交流と協力を促す重要なプラットフォームになると思いますので、ご臨席の皆さんもぜひこの機会を利用していただきたいと思います。

また、文化とスポーツの交流も促していきたいと考えております。来年の投資貿易博覧会において、韓国、日本、北朝鮮、モンゴル、ロシアに芸術文化交流団をぜひ送っていただきたいと思います。ここで韓長賦省長に代わりまして皆さま方に来年の9月2日～6日に行われる博覧会にぜひ参加していただきたいと要請を申し上げます。

また、補足なのですが、先ほど物流の話をしました。吉林省は、港は特にありませんけれども、ぜひ隣接する皆さん、例えば沿海地方ザルビノには非常に重要な港がありますけれども、こういった港の施設を利用させていただきたいと思います。もちろん道路網がありますけれども、先ほどダリキン知事もおっしゃいました、ザルビノと琿春の航路を開設したいという話がありました。また、数日後、私は訪問する予定であります。その話についても進めていきたいと思います。

【平井知事】

今、ご提案がありましたので、あらためて共通認識としたいと思います。物流については先ほどのダリキン知事と同意見と理解をいたしました。

それから、ダリキン知事から2008年の第3回国際環境フォーラム「国境なき自然」への参加呼び掛けがありましたし、2012年のAPECウラジオストク開催についてなど、これからの沿海地方の取り組みのご紹介がありました。2008年の「国境なき自然」はちょうど我々のサミットの時期と重なるのかもしれませんが、もしこれらイベントにつきまして、共通理解を持つ上でコメントがありましたらお願いしたいと思います。

【ダリキン知事】

はい、そうですね。私どもウラジオストクはA P E Cの開催国となります。これは非常に大きな行事で、世界中の首脳の方が集まるという意味で非常に大きな意義があると思っています。私どもは既に準備段階に入っております。そして、この準備段階の中で全力を尽くしております。政府側からもたくさんの資金、それからいろいろな支援を得ております。そして、ウラジオストクの南側で新しい橋を造ったり、公園の整備を行ったり、道路を造ったりしております。46の経済的プロジェクトが提案されておまして、ガスパイプライン、精油所、コンビナートなど、それからアルミニウムの生産工場などたくさんありまして、このときにいろいろ発表されることになると思います。ぜひ皆さまこの時期に合わせていらしていただくこと、それから準備段階については皆さまのご協力を期待しております。ありがとうございます。

【平井知事】

ありがとうございました。ダリキン知事からA P E Cなどのご紹介がございました。それぞれの地域から協力していくことにしたいと思います。

このほかの論点として、大学教授協議会への協力関係の樹立とか、青少年交流の育成、次期開催地をウラジオストクとすることの了解が得られたと思います。以上の議論の成果をまとめまして、今日の夕刻までに地方政府サミットの共同発表を取りまとめたいと思います。そして、共同発表と合わせて環境についての宣言を採択させていただければと思っています。事務局に作業は一任いただきまして、後ほどそれぞれの地域と協議をさせていただきたいと思います。

時間がたちまして議事を閉じさせていただきたいと思いますが、今から100年ほど前にこの世から去りました、ロシアのトルストイはこうに言うわけであります。「自分自身の全存在をかけて、疑う余地の無い永遠不滅の人間の掟というものを我々は実行しなければならない」。私たちは今日協議をして合意を得るわけですが、これは国境を越えた人間の掟とでも言うべき環境、または地域の振興に向けた経済交流などのルール、共通理解だと思っています。これをぜひ実行に移していくように、相互に協力していくことをここに誓い合いたいと思います。

本日はこうして皆さまのご協力をいただきましてサミット本会議を閉じることができました。いったんここで私どもの任務は終了させていただき、司会にマイクを戻したいと思います。本当にどうもありがとうございました。

<質疑応答>

【司会】

ありがとうございました。本日は若干ではございますが、質疑応答のお時間を設けております。ご来場の皆さま方の中でご質問等ございましたら挙手をお願いしたいと思います。関係の者がマイクをお持ちいたしますので、それからご発言をいただきたいと思います。い

かがでございますでしょうか。

【ハローほうき国連代表】

各国の知事の皆さま、まずはようこそ鳥取県にいらっしゃいました、ありがとうございます。本日は大変有意義なお話を聞かせていただきました。皆さまの行政単位でのお話、それから先ほど初めにありました各大学での学術単位での協力のお話、そして午後からあります各報道機関でのお話等、たくさんあります。

私はこの会議に一般の国際交流団体の代表代行としてまいりました。あそこの地図をご覧ください。先ほどありました環境問題、砂漠化の問題、そして黄砂の問題、あの地図をご覧ください。先ほど限り、このサミットで話し合う砂漠化、特に黄砂の問題に関して最も大切な位置に我々がいると思います。鳥取には鳥取大学の乾燥地研究センター、そして鳥取環境大学という素晴らしい研究機関もあります。先ほど平井知事もおっしゃいましたけれども、ぜひ命を懸けて本気で環境問題、砂漠化の問題、黄砂の問題に取り組んでいただけたらと思います。

そして、もう一つお願いがあるのですが、私たち民間の団体レベルでもそれぞれの国々でしっかりとした交流をしたいなと思っております。私はハローほうき国連という鳥取県の西部地域で国際交流をしている者ですが、皆さま方の国々、地域でもそういった国際交流をやっておられる団体がありましたらぜひ紹介をさせていただいて、今後交流したいと思います。環境問題は民間の力がうねりのように盛り上がらなければ前に進まない問題だと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

【司会】

ただ今のご発言に対しまして、特にお答えというのはよろしいでしょうか。はい、かしこまりました。そのほか、ご意見等ございますか。

それでは特にないということでございますので、以上をもちまして第12回北東アジア地域国際交流・協力地方政府サミットを終了させていただきたいと思います。それでは、各国首長の皆さまにご退場をいただきましょう。各国首長の皆さま、ありがとうございました。場内の皆さま、どうか拍手でのお見送りをお願いいたします。

皆さまどうも本日はありがとうございました。なお、午後からは13時半から、北東アジア地域美術作品展示会の開幕式が1階の多目的ホールでございますし、14時半からは北東アジア地域マスコミ代表者会議がこのシアターでございます。さらに、15時半から共同記者会見もございますので、引き続きご参加いただきますようよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

<本会議終了>

※鳥取県文化観光局交流推進課にて一部編集

※ロシアの地名「トロイツァ」は、「ザルビノ」に統一表記